

令和5年度公共交通シンポジウム in 九州 まとめにかえて

2024年02月14日

(コーディネーター) 大井 尚司

(大分大学経済学部門教授／日本都市計画学会九州支部幹事)

宇佐美先生講演:「まちと交通の考え方」

- 「公共交通計画」「公共交通会議(協議会)」にきちんと向き合っているか？
 - 「こんな交通会議はダメ」をやっていないか？
 - 利用者を見ているか: 「行政の枠」から「生活圏域」へ
- 情報をきちんと集めて、きちんと仕事しているか(コンサルタント会社も、行政職員も)
- 人と組織が重要
 - それが「協働」していく
 - 市民も要望ばかりせず「協働」してもらおう

熊本市飯干課長講演：「交通とまちの融合実践」

- 熊本(ほどの都市)でも公共交通を使ってくれない現実
 - 渋滞の常態化(都市圏以外の政令市ワースト)
 - *決して公共交通が少ないわけではない
- まちづくり(都市計画、立適)から交通計画(GD、条例)へ
 - 「枝・葉・幹」のネットワークでランドデザイン
 - GDの実質化のために条例を策定
 - 各主体の責務を明確化、基本施策と具体的な施策
 - 居住誘導と公共交通の関連付け、検証の実施
- さらに進んで:まちも交通も連携と深度化を
 - バスの共同経営、コミュニティ交通、利用促進策、...
 - 「多核連携都市」: 人口分布を踏まえ地域圏全体を暮らしやすく

宗像市内田課長講演：地域特性をみた団地とまちづくりのあり方

- 人口増加の市も減少予測でまちづくりの見直しへ
→ 公共交通利用を意識した居住誘導・拠点整備
- 団地再生と交通の一体化：まちづくりへの関与
団地(地域のまちづくり)に対する意識醸成：愛着と定住
民間事業者との連携
地域の特性を見た施策(地形、高齢化率、移動手段選定)
- 従来型交通(鉄道・バス・コミバス)と現代型交通(オンデマンド)の共存(双方の活用)
現代型も利用定着(増加)、適切性は地域による

豊後大野市古庄主幹講演：過疎地の抱える課題の把握 と対策—一定住にむけて—

- 満足度と利用状況がかみ合わない公共交通：必要、でも不便
頼みの通学や高齢者まで減少
← 高齢者の人口横ばい＋免許・車保有高齢者の増加
- 地域生活に必要な移動が「できない」現状と今後
独居で不安、買い物や通院はタクシーでなく子供の送迎
→ 不安解消のため地域拠点に生活機能が出張する実験
「買い物」でも違う需要への対応：買い歩きたい⇔店内歩けない
本当のことを言ってもらうのは大変： どう拾っていくか？
互助輸送は「老老介護」： 本当にきついところはできないのが現状」
- 利便性が上がった、が、需要が伸びない
料金・わかりやすさには勝てない
立場による事情の違い（医療、タクシー）

PDテーマ1

- 部署の縦割り(すみわけ)は痛い⇔(国含め)一緒に考える動き
 - ☞ 大きなベクトルが同じ方向を向けば(H28法改正後)
同じ課になったら動きやすい(別だと部分最適狙いになる)
⇔ あえて組まないことも(部署の抱える課題との関係)
 - * 複数自治体になると大変 ⇔ 重複しているところの整理(節約)
 - * 予算をどう集約するか
 - * 何でもやる部署の方が一気にできる?(都市・規模の機動性?)
 - * タイムスケールの違いをどうクリア?(効果発出、取組に要する期間、社会情勢変化)

○まちは広がるときは広がるが、縮むときは風船がしぼむようにはいかない

中心部に戻して合築(寝屋川)、郊外に拠点施設を出さない
交通の役割分担を明確に
拠点を作るうえで別々だとまずい→早いうちに連携

PDテーマ1

- いろいろな立場がある: 定例で交流、妥協点を探ることも大事
 - ☞ 成果が出れば何とかなる ⇔ もめるのも事実
ゆっくりした感覚で
- 大学のような中立が入ると整理できる可能性
 - 行政でそれを担える場所(情報共有)があれば何かできないか?

PDテーマ2

- 公共交通計画で「5年後以降」のことを書くことは誤り？
 - まちづくりの方針を指す諸計画 ⇔ 交通計画のゴール
 - 接近度を測るために5年ごとをやる(見直しをしすぎない)
 - 大きいゴールは「〇〇年後のまち」(複数市町村連携もあり)
 - 過渡期に公共交通がどうカバー ⇔ 都市機能誘導は短期で可能
 - * 議論の場、計画そのものがあるかも(地域戦略を一体で)
 - * すたれてから戻すのは大変、すたれる前に手を打つ
 - 「投資」「社会インフラ」の観点:「独立採算制」の枠組を外す
- 利用者は高齢者だけ？
 - 元気な人もターゲットに入れていいはず
 - 枝光の地域交通(地域交通が地区の元気になる) ← 商店も対象？

PDテーマ2

- 運転士の問題をどうするか

共同経営、のような「総動員」(事業者間、モード間)

*「検討会」レベルからでも良いか(法定協の役目?)

2024年問題、生産年齢人口減少

→ 副業、兼業でできれば

*人材育成の問題:各モードだけでは無理

- ひとつものの効率化

鉄道とバスの補完関係: トータルのネットワークで見る

「乗り継ぎの良さ」も見せる必要あり

「乗り合わせて楽しい」→それが実は効率化(いろいろな面で)

PDテーマ2

- 「価値」「意見」の違い:全部はきけない
(部分最適の合成 ≠ 全体最適)
利便性が失われるのも仕方ない(「不便益」の考え方)
- 良い商品を使ってもらうための情報提供・価値(ニーズはあるか)
危機感をあおるだけではない情報共有(理解してもらう)
遅れ情報提供
「運ぶ」だけからの転換:ギャラリー化、話すために乗る、等
- 他分野連携
医療: 送迎部門は人手不足で経営圧迫、の事実
産業政策との連携が重要 * 産業政策と路線政策の分離